

復興へ向けて

地域と一体となって取り組む災害復旧現場をみてください

——震災復旧工事現場視察会の報告——

国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所 調査課長 館 敏幸
復興対策課長 和田 日朗
専門調査員 今井 哲



はじめに

(1) 災害復旧の経緯

—平成16年10月23日午後5時56分—新潟県中越地方を「震度7」の激震が何の前触れもなく襲いました。

その後、断続的に発生した余震は同年12月28日までに震度5以上の強震だけでも18回を数えるに至りました。

この中越地震により被災の著しい新潟県長岡市古志（旧山古志村）東竹沢～小千谷市小栗山間（約10km）は、新潟県知事の実請により、同年11月11日に直轄権限代行による災害復旧事業に指定され、復旧工事に着手することとなりました。



写真—1 大規模な土砂崩壊が発生した斜面

(2) 復旧計画の概要

事業をすることになった直後から、専門家、行政関係者からなる技術検討委員会を設置し、意見や助言を得て復旧計画を作成しました。原形復旧を原則に、著しい被害を受け復旧までに時間がかかりコストも大きくなる区間を代替えルートとし、地方自治体で作成した復興計画等も参考に計画を立案し、工事に着手しました。

地域を復興するためには一刻も早く住民が地域に帰ることが必要であり、旧山古志村では全村帰村の目標を平成18年秋としています。国道291号の復旧も原形復旧を行う区間については平成17年内の完成を、代替えルートとなる区間については平成18年秋の完成を目指して工事を行っています。



図—1 一般国道291号直轄権限代行による災害復旧区間



これまでの取り組み

新潟県中越地震の震源地から近く特に大きな被害を受けた小千谷市、川口町、旧山古志村は、最大積雪が4mにも達する豪雪地域ですが、雪を克服し自然や歴史・文化、地の食材等の地域資源を生かした暮らしを営んでおり、自然景観と合わせまさに「日本の原風景」が残っていました。

しかし、発生から1年が経過した今でも、未だに多くの道路が寸断され斜面が崩壊するなど生活基盤の復旧が終わっておらず、約9,000人が仮設住宅での避難生活を余儀なくされています。

被災された方の生活再建等を支援するために、一刻も早く復旧事業を終えることが必要ですが、一方では、衰退しつつあった中山間地域を復興するために、地震を契機とした地域づくりも求められています。

そこで、これらの地域（ふるさと）固有の景観、自然、歴史、道の駅などの資源を活用し、訪れる方と地域の方々の交流の場となる「よりみちしたくなるような」美しく味わいのある道づくりや地域づくりを、地域と行政が連携して行う「ふるさとニッポン・よりみち街道『中越』プロジェクト」(<http://www.yorimichi.go.jp>)に取り組んでいます。

このプロジェクトで提案された意見等で、災害復旧事業で行うものについては設計に反映し、復



写真—2 「ふるさとニッポン・よりみち街道『中越』」開催状況

旧工事を行っています。



一般市民を対象とした視察会を開催

旧山古志村を中心とするこの地域は、中越地震により住宅や道路をはじめとする生活基盤が著しく被災しました。地域の大動脈である国道291号をはじめ、数多くの復旧工事を行っていますが、「震災前の安全が確保できないこと」「工事用車両が多く通行していること」「避難指示が解除されていない地域もあること」などにより、一般車の通行を規制しています。

このためこれまでは、この地域の被災状況や復旧工事の状況等については、被災地域の方に工事の状況をお知らせする「棚田通信」やテレビ・新聞などのメディアを通して皆様にお伝えしてきました（写真—3～5）。

しかしながら、平成17年7月下旬にこの地域はいまだに地震の大きな爪あとを残しているものの、ようやく避難勧告・避難指示が一部解除されたことから、被災されました皆様をはじめ、より多くの皆様に、被災現場・復旧工事現場を直接視察いただき、「中越地震の凄まじさ」「復旧工事現場の進捗状況」を確認いただこうと、視察会を企画いたしました。

新聞広告および長岡国道事務所ホームページ（<http://chokoku.jp>）により公募をしたところ毎回160名を超える多くの皆様より応募いただきました。しかしながら大型工事車両が行き交うなか、安全に皆様をご案内するには60名の定員が限度と考え、やむなく抽選にて参加いただいています。視察会は、現在までに5回実施しました。実施日が平日であったこともあり、中年層・若年層の参加者が少なかったのですが、中越地震で被災された方が多くおられました。

参加の皆様には、まず、「災害復旧事業インフォメーションセンター」にて、この地域のすばらしさがわかる「美しいふるさとの風景」や「牛の角突き」などの写真をご覧いただき、その後、担当職員より中越地震による被害の状況や復旧計画



写真—3 橋梁架替え現場を視察



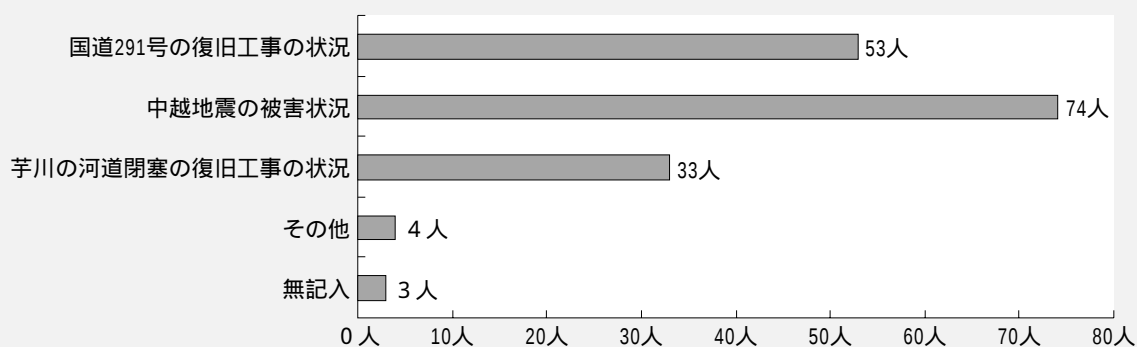
写真—5 大規模な土砂崩落した斜面を望む
(背面は河道閉塞により水没した橋梁の架替え現場)



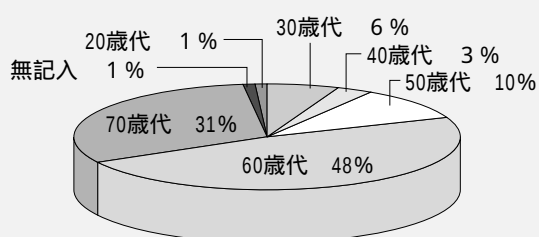
写真—4 高台よりトンネル建設現場を視察

の概要と、法面を風景にあわせ丸みをおびたデザイン（ラウンディング工法）にすることなど景観や安全性に配慮した工事を行っていること等説明し、現地へ向かいました。

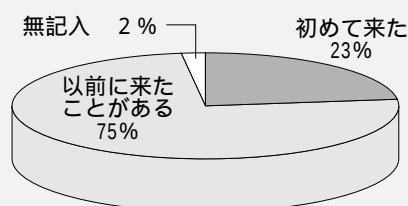
車中では、被害の甚大さや変わり果てた風景を目の当たりにしながら、「私が以前来たときにはこんなものがあつたのにねえ」「きっと、地震がおこる前は、すばらしい風景が見れたのでしょね」など、ただただ地震の被害の大きさに落胆し、「ため息をつく姿」が見られました。



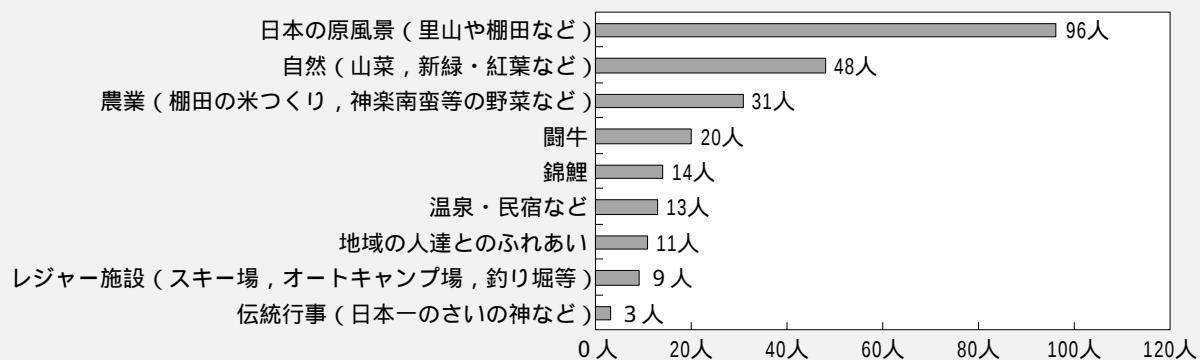
図—2 どのような事に関心を持たれて参加されましたか？（複数回答あり）



図—3 参加者年齢



図—4 「山古志」へ来た事がありますか？



図—5 この地域で，関心のあるものは何ですか？（複数回答あり）



写真—6 インフォメーションセンターにて概要説明

現地では，「別線復旧ルート（トンネル掘削）」や「大規模な土工事」「芋川の河道閉塞により水没した橋梁の架替え工事」等の現場をバスを降りて視察していただきました。

視察会で行ったアンケートの意見・感想を紹介させていただきます（図—7）。

参加者は，「被害の状況」や「復旧工事の進捗

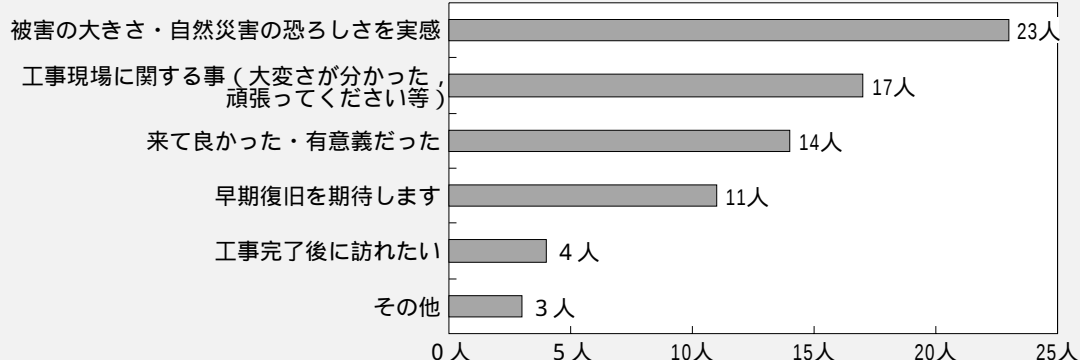


図—6 インフォメーションセンター案内図

状況」に強い関心を持たれています。また，視察いただいた地域に「里山」「棚田」などの「日本の原風景」的なイメージを強く感じられていることが分かります（図—3～5）。

参加されました皆様からは，

- ・日頃テレビで見ている情報と現場は大違い
- ・現地を見ないと理解できないものを見せてもらった



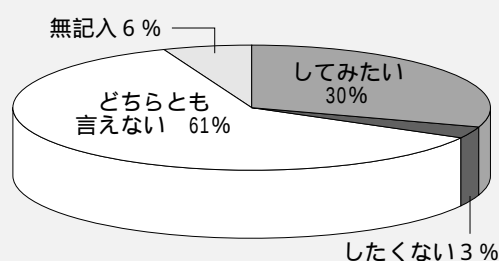
図—7 視察会参加に対する感想（複数回答あり）

- ・あの日の山古志の人々の苦労が分かりました
- ・スケールの大きな工事で驚いた
- ・景観に配慮した土木工事工法が実施されていることが理解できた
- ・復旧工事の全国からの応援，感謝します
- ・美しい山古志が早く戻って，もう一度来たい等，たくさんの感想をいただきました。



未来へつながる道（こころのふるさと）を創ろう！

視察会を終了し，お帰りになる際に「係員さん，私ねえ～，山古志にたくさん知り合いがいたのだけれど，皆さんまだ仮設住宅で生活をされていて，いざ目の前にすると，なかなか当時の様子やこれからの生活再建の目処なんかを聞けなくて，今日はほんとにいい機会だったわ。」「私たちも何かお手伝いができるといいのだけれども，今は何もできません。皆さんを応援してます。がんばってください。」などと心のかよう，心暖まるお言葉もいただきました（図—8，9）。

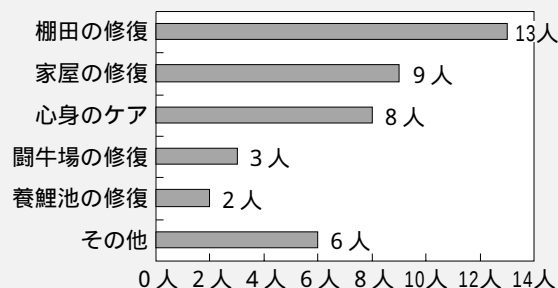


図—8 この地域の復興について，ボランティア等のお手伝いをしてみたいですか？

国道291号は，一般車両は通行止めになっていますが，国道の災害復旧工事以外にも，砂防，県，市の工事用道路としての役割があり，場所によっては交通を確保するため迂回路を設置したり，夜間作業を行うなど通常の現道工事と同じ条件での施工をしています。加えて地震により地盤がゆるむなど非常に厳しい条件の中，施工業者と一体となり総力を挙げて復旧に取り組んでいます（写真—7）。

これから現地は降雪期（平成16年度竹沢地先最大積雪深356cm）を迎え施工期間は限られてきますが，現道復旧を本年冬前までに，別線復旧区間（トンネル掘削・橋梁架替え等）を平成18年秋までに完成すべく，美しく味わいのあるみちづくりや地域づくりを行っていききたいと思います（平成17年12月現在）。

図—2～5，図—7～9のアンケート結果は，第2回，第3回の視察会参加者120名を対象に行ったものを集計したものです。



図—9 お手伝いをするとしたら，どのような作業をやりたいですか？（複数回答あり）



写真—7 大規模土工の施工状況